目覚めると従姉妹を護る美少女剣士になっていた

狩野景
挿絵／天鬼とうり

あとみっく文庫

立ち読み版

目次

◎章乃壱　鬼ヲ斬ル姫――006
◎章乃弐　人ノ身ヲ奪ウ鬼―033
◎章乃参　僕ハ女ノ子――066
◎章乃肆　水底ノ淫鬼――096
◎章乃伍　這イ寄ル危機――146
◎章乃陸　羅刹ノ鬼神――185
◎章乃漆　学園ノ魔宴――225
◎章乃捌　学園、逢魔ガ刻―276
◎章乃終　平穏ノ日々――315

幼なじみの背中がビクンと震え、美感にしかめた顔が瞬時に赤らむ。
（う、うわっ！　き、希美乃の胸ッ‼　触っちゃったっ、直にッ！　小さい、のに、こんな……柔らかいんだ……）
膨らみは控えめでも手荒に扱えば崩れてしまいそうな感触は変わらない。
むしろ小さい分だけ弾き返すような弾力は大人しく、指先に乳肉がしっとり絡みつく触り心地をもたらしてくる。
お互いに揉み揉まれる甘美に顔を上気させると、一瞬で我に返り慌てて手を引き戻す。
「ひゃうっ！」
「ああっ‼」
その拍子に、二人とも水着の肩紐が外れてしまい濡れた布地が捲れ返った。
はち切れんばかりの乳房が、窮屈な拘束を弾き飛ばして溢れかえる。
「うぉおおっ！　すげぇえっ‼」
「やっぱ大きすぎなんだよっ、スク水じゃ抑えきれないッ！」
「だが、それがいいっ！　実にイイッ‼」
沸き上がるヤジにキッと睨みつけるが、男子たちの食い入るような無数の視線に迎撃されて慌てて顔を伏せる。
「うわ、いまの表情、ズキュンときたっ」

「か……可愛い……俺、惚れたかも……ッ!!」
その強気顔と恥じらいのギャップを瞬時にさらけ出した反応に、ますます男が色めき立つ。いや女生徒たちの中でも、はるかの様子に胸ときめかせる者は少なくない。
希美乃の水着も引っかかりの乏しさが災いして、ささやかな膨らみから滑り落ちた。
「控えめな大きさの健康美〜ッ！」
「これはこれで、そそられるなあ……」
「彼女にこそ、競泳用ではなくスク水を着けて欲しいッ!!」
「馬鹿野郎!!　競泳用水着だからこそ、あの鍛え抜かれた肢体が映えるんだろうがっ！」
彼女の微乳にも、はるかに負けないほどのどよめきが湧き起こる。
スク水派と競泳用派との間では、取っ組みあい寸前の激論が火花を散らしていた。
慌てて二人とも腕で庇うが、膨らみのほとんどが隠しきれず晒される。
突然のこれ以上ないダブルポロリに、見守る生徒たちが狂乱した。
「おっぱいっ！　おっぱいっ!!　おっ、ぱいっ！　おッッッぱいっッ!!!」
誰が始めたのか分からぬが、おっぱいコールが次第に大きさを増し、津波となって押し寄せた。バスドラがそのリズムをキープし、生徒会長とアンジェラもマイクを通してそのコールに声を重ねる。
メロデスバンドの演奏に負けない音量の大歓声が沸き起こり、二人の乳房に全生徒の食

い入る視線が集中した。

（あう、片腕じゃ、全部隠しきれない！　でも両手使ったら……）

希美乃が襲いかかってくるだろう。彼女も、はるかと同じに片腕を巻きつけるようにして両方の房を隠している。空いた方の腕は、相手の鉢巻きを奪おうと構えたままだ。

かろうじて乳首は隠せているけれど、変に暴れたらズレて見えそうだ。そもそも両手を使っても隠しきれない巨乳を片腕でギリギリ保護するはるかは圧倒的に不利だ。

そもそも本当は男なんだから、胸くらい見えちゃったって構わないじゃないか。

そう思い込もうとするが、なんだかすごく恥ずかしくて無理だった。

もしかして思考まで女っぽくなってきているのだろうか？

遼としては最も望ましくない可能性が脳裏をよぎる中、ふと、希美乃の馬を作る男たちの視線が自分の胸に釘付けとなっているのに気がついた。

（こ、こいつら……!!　もしかして……!?）

自分の馬の様子を確かめると、彼らもやはり真正面で水着がはだけた希美乃の胸に視線を飛ばしていた。

しかし向こうがこちらを凝視する目に比べると、それほどは熱烈でないように思える。

希美乃の馬たちは、もうなんというか、至近距離で乳首以外全然隠しきれていない生巨乳を突きつけられ、いまにも鼻血を噴きそうな有様になっていた。

彼らの気持ちは、本来男なのだからよく分かった。自分の乳は武器になる。しかも希美乃の微乳とは比べものにならないほど強力だ。
（恥ずかしいけど……これくらいならっ。えいっ）
腕をほんの少し上に持ち上げ、下から見上げる彼らに下乳がよく見えるようにしてやった。
「――いけえっ！　突撃ぃッ!!」
同時に、自分の馬たちへ号令を飛ばす。
「――!!　おおおぉおっ！」
ハッと我に返った渡辺たちががむしゃらな体当たりをぶちかます。
「あっ、ばか。なにボケっとして！　きゃうっ!!」
はるかの胸に見とれていた水泳部員どもが、呆気なくバランスを崩す。
希美乃の身体が放り出された。
「――もらったっ！」
「だ、だめっ！　ああ――っ!!」
それと同時に突き出したはるかの手が、幼なじみから鉢巻きを奪う。
ドッゴァアアア――――ンッ!!　ズッガァアアア――――ンッ！
水飛沫を上げて希美乃が水中に落ちる中、どう見ても消防法違反なパイロがステージの

上で炸裂音と共に巨大な火柱を噴き上げ激戦の終わりを告げた。
「試合終了！　勝者、一条はるかチームッ!!」
生徒会長の勝ち名乗りを受け、手にした希美乃の鉢巻きを放り投げると、割れんばかりの歓声が沸き起こる。その間に水中に飛び込むと、はるかは大急ぎで水着を元に戻し危うい巨乳をその中へしまった。
プールサイドで激戦を見守っていた生徒たちが興奮して水に飛び込み、集まってくる。もたもたしていたらちょっとシャレにならないことになっていただろう。
「あ～あ、おしいとこまで行ったんだけどな。胸の差で負けたか～」
幼なじみの方も悔しそうではあるが晴れ晴れとした顔で水着を整える。
「希美乃……。んっ!?」
健闘を称えあおうと彼女の方に向き直ったその時、いきなり水が妙なうねりを生じて身体にまとわりついてきた。
（な、なんだ？）
一瞬気のせいかと思った。みんなが一斉に水の中を向かってくるのでそのせいかと。だがあからさまに意志を持ったような蠢きに尻をぐにょりと揉まれて、異変だと確信した。
渡辺たちは三人で「俺たち強ぇえっ！」とか「うおー、はるかちゃんと温泉ッ!!」「混浴露天お泊まりっ！」などと騒いだ後、押し寄せる観衆に揉みくちゃにされ歓喜に浸って

いる。はるかの尻など触れるわけがない。
「負けたわ～、はるか。それにしてもすごい動きだったわね。なんか格闘技とかやってるの？　それとも体操競技とか？」
「い、いや別に……ふぇ～ッ」
超人的な身のこなしを希美乃に問われ、なんと誤魔化そうかと口ごもる。
その最中、脇腹をさわさわとくすぐられた。
「どうしたの……？」
脱力のくすぐったさに妙な声を上げるはるかへ、幼なじみは小首を傾げ尋ねる。
「なんでもな、ひぅッ！　ん、あぁ……っ!!」
誤魔化そうとするが、今度は乳房を絞るように揉まれて悩ましい喘ぎを漏らした。
「大丈夫？　なんか気分悪そうだけど」
「う、ん……平気……」
（やっぱり、変だ……この、水ぅ……。身体を……弄ってくる……ッ）
その間にも乳首を摘まれクリクリと捏ねられる。甘い喘ぎが上がりそうになるのをこらえ、変化に乏しい表情でどうにか誤魔化す。
「――ひっ!!」
だがついには意志を持って動くその水は、はるかの肌にぴっちり貼りついた布地を持ち

上げてスクール水着の下に入り込んできた。柔肌を満遍なく撫で回されるむず痒さに息が詰まる。強張った目で辺りを見回すと他の生徒たちに異変はない。
自分一人だけが標的にされている。
（まさか……？　これも、鬼ッ⁉）
慌てて結女の姿を探すと、彼女はプールサイドの近くから不格好な犬かきでこちらに向かってきている。だが生来の運動音痴なためさっぱり進んでいない。
別段、何かに襲われている様子はなかった。ひとまず安堵する。
まずは標的である彼女よりも先に、邪魔くさい守護者を先に片付けようというのだろうか。スク水の内側に潜り込んだ蠢く水は、次第に大胆さを増してきた。
「ン――――ッ、フゥッッ！」
水着の上からでも鮮烈だった乳首を直に転がされ、漏れそうな嬌声に歯を食いしばる。
同時に乳房を揉み拉げさせる刺激がバリエーションを増す。
膨らみの裾から絞るように圧迫した。
かと思うと、乳肌を窪ませて小気味よいリズムで軽やかにほぐしてくる。
「おめでとう、一条さん！　かっこよかったです⁉」
「ふへ……、ありが、と……ンぅ……」
「感動しました⁉　水の上で舞う姿、すごい、綺麗だったッス！」

「そん、な……。たいしたこと、な……あ、あぁ……イぃ……」
口々に勝利を祝って取り巻く人々に平静を装って応じようとするが、声に艶めかしい揺らぎが滲み出た。水に弄ばれひとりでに水中で動き弾んでいるように見える乳房を、みんなに気づかれてしまうのではと気が気ではない。
「ヒッ！」
唐突に、感度が高まった乳首を弾く刺激に襲われ、身体が大きく打ち震えた。
「あ、ちょっと、ひゃ、ひゃっくり……が……。あは、あはは……、ふあっ‼」
漏れ出た声に、なんだろうかと周りの連中が訝しむ。咄嗟に取り繕うが、今度は陰唇花弁をチュンと啄まれるような刺激に見舞われ、膝が崩れそうになる。
「大丈夫？　顔赤いけど。疲れてるなら、プールから上がった方が……」
そばにいた女生徒が心配してくれた。自分もそうしたいのだが、返事をしようとすると乳首が強めに圧迫されて声が詰まる。
「〜〜〜〜〜〜〜ぅッ」
無理に何か言おうとすれば、はしたない喘ぎ声になりそうだ。
仕方なく唇を噛みしめ、首を左右に振ると、乳首の圧迫が和らぐ。
取り繕わねばと思えば思うほど、頬に赤みが差して怜悧な無表情が無防備に弛む。
潤みを帯びた切れ長の瞳に、間近にいる者たちが蠱惑の色香を感じ見入ってくる。

（だめ、だ……これ以上。おっぱい、キモチよすぎて……声、出そう……）
それにさっきの強めの刺激がまたいつ襲ってくるのかと思うと気が気ではない。
「おっめでとうございまーす、一条はるかさんっ!! 編入早々の大活躍でしたねっ！」
その最悪のタイミングで、防水機材を抱えた報道部が勝者インタビューにやってきた。
見計らったように、水着の下の淫靡な水がぬるりとした感触で腹部を撫で回しながら、股間へと到達した。
（あ、あぁぁ……ッ!! だめっ、そんなとこ、弄られッ、たらっ！）
慌てて太ももをすりあわせ股を窄めるが、太さも形状も自由自在な水には無駄な抵抗だ。
乳房同様に尻をぷにぷにと揺さぶられ、むず痒さに括約筋が弛みかける。水着に着替える前にしっかりとトイレは済ませておいたが、プールの中で身体が冷えている。
もしかするとこのまま尿を漏らしてしまうかもしれない。
「おやあ、顔色が悪いみたいですけど、大丈夫ですか？」
心配しながらも、レポーターはインタビューを続ける気満々なのが見て取れた。
断ってしまいたい。話すことなんか何もないのに。
（くぅ……あ、あぁあぁぁ……おしっこ、の、あな、あぁあぁぁ……ッ！）
しかし口を開こうとした途端、水の蠢きに小さな尿口を押し開かれる。
このままではいくら我慢しようとしても、勝手に小便が漏れ出してしまう。

どよめきがひときわ高まった。
長く引き締まりながらも十分な肉感を備えた太ももが、黒いニーハイとのコントラストに鮮やかな白を目に焼きつける。
ブラウスの裾が悪足掻(わるあが)きのようにわずかにかかり隠そうとする純白の清楚なショーツ。その小さな布地に収まりきらぬ尻が躍動的な迫力を持って張り出していた。
「イイケツしてるじゃねえか。クーッ、むしゃぶりつきてえっ!!」
胸の膨らみをはっきり拝めない後ろの連中が、稚拙な表現で騒ぎ立てる。褒められたって何一つ嬉しくない。屈辱的なだけだ。
男の時はペニスがもっこりとしていた股間はつるんと綺麗さっぱりなだらかになり、恥骨から鼠蹊部(そけいぶ)へ落ちくぼむ小高い土手が盛り上がっていた。
「ひゃはっ、スケベな盛りマン」
「パンツちっちぇんじゃねえか？　そんなに食い込ませちゃってさあっ」
「こんなワレメ筋くっきりさせたま〇こ、初めて見たぜ」
弾力的な肉厚の女陰を護るクロッチ部分、食い込んだ布地に秘裂の縦筋が刻まれ、男たちも視線を釘付けにしていた。
（イヤらしい目で、そんなとこっ。くぅ……、おんなのからだに、なっちゃったからっ）
もう少し程度の高い連中なら黙って見ているのだろうけれど、救いようのないレベルの

こいつらは、慎むことなく大声でワレメ、ワレメと騒ぎ立て、それが結女と希美乃に聞かれているかと思うと恥ずかしさで死にたくなる。

「うぅ……。男なんだから……ボクは、男なんだから、こんなの大丈夫……」

自分に暗示をかけるようにつぶやきながら震える手でボタンを外し、ブラウスを脱ぐ。

大きさを誇示しながらもその全容は隠されていた撓わな乳房が、純白のブラジャーにはち切れんばかりの美球を収めてさらけ出された。

「乳ィ、マジでけえっ！」

身の危険を感じるほど男たちの昂りを感じる。

「こ、これで、何も持ってないって分かっただろ？　だから……」

恥ずかしくて腕で抱くように隠すと膨らみがむにゅんと拉げ、余計に胸の谷間を強調する。囃し立てる声が激しさを増した。

下着にオーバーニーソックスだけの姿で蜥蜴顔男を窺う。

「アアッ？　まだ全部脱いでないだろうが！　その無駄にでけえ乳の谷間の中とか、ケツの間とか、なんか隠してんだろ⁉　何も持ってねえってんならきちんと見せてみなっ‼」

「なっ⁉」

むちゃくちゃすぎる。けれどもそんなのは最初からだった。もし拒めば代わりに結女と希美乃にもこんな恥ずかしいストリップをさせるのだろう。男たちの手がいつでも引き千

切るぞと言わんばかりに、彼女らのスカートとブラウスにかかる。
（く……そぉ……。こんな奴らに、見せるのかッ、ボクの……おっぱい……ッ）
背中に手を回して前屈みになると、ヒューヒューと囃す声が盛大になる。
母に特訓を受けやっと自分で着けられるようになったブラのホックに指をかけ外すと、押さえ込まれていた弾力が白い布地を弾き飛ばす。
ぶるん、と波打って仄かに上気した柔房が左右奔放に揺れ弾んだ。
手のひらに収まらぬサイズを誇りながら、その重さに崩れることなく釣り鐘型の美形を保って、ツンと小生意気に上向いた先端で桃色の小粒な乳首をそそり立たせる。
「すげえ、揺れまくってるデカ乳ッ！」
「くるっと回ってこっち見せろっ」
「おらっ、真っ直ぐ立てよ！　デカ乳よく見せやがれっ!!」
何も聞かない。何も考えない。意識したらこれ以上動けなくなる。
前屈みに巨乳を吊り下げたまま、ショーツを脱ぎ下ろす。
「ん……ッ」
陰唇の狭間に食い込んだ布地が抜け出る擦れ感に小さく声が漏れた。
唇を引き結び男どもに悟られないようにしながら、しゅるしゅると衣擦れの音を奏でて小さな布地を足首まで下げる。

ポニーテールに纏めた鴉髪を揺らし顔を上げた。
恥辱で頬が熱く赤らんでいるが、切れ長の瞳で舐められまいと蜥蜴顔を睨みつける。
「これでいいんだろ！　ほら、武器なんかどこにも持ってないからっ!!」
「でけえケツの間と乳の谷間見せろや」
「――クッ！」
当然だが何も隠していないことなんかこいつらは重々承知だ。ただ自分たちに刃向かった女を辱めたいだけ。嫌がってもむしろ喜ばせるだけだ。
女性化すると表情が現れなくなるのを利用して、平然を装い乳房を自分で掴むと左右に押し広げその狭間を露わにした。
重なりあって蒸れていた箇所に外気が触れて心地よい涼しさを覚える。
囃し立てる声が少し収まり、真剣な眼差しが二つの膨らみの隙間に集中した。
（んぅ……なん、だ……）
その執拗ないくつもの眼差しに妙な気分がざわめいてくる。
何も考えず機械的な動作を心がけくるりと後ろを向くと、尻を蜥蜴顔男に突き出しながら、乳房同様に両手で割って中を見せる。
「へえ、綺麗なケツアナしてるじゃねえか」
そんなこと知らない。こんなところ、自分で見たことなんてない。

前の穴も女体化してから色々弄りはしたものの、見て確かめることはしていなかった。
「おま〇こもピンク色であんまり弄ってねえな。処女か？」
その前穴に男の興味が注がれる。ヤツが何か言うとその箇所に他の連中の視線が集中してはるかの落ち着きをなくさせる。
「でもそれにしちゃあ、もう濡れてきてるな。オレらに見られて感じてきちゃったか？」
「――!!　そ、そんな、わけ……、あるかっ！」
恥ずかしくて悔しくてたまらないだけだ。こんなことに感じる女の子なんているわけない。自分は本当は男だけど、それだけは間違いないと分かる。
なのに、下腹の奥のざわめきが勢いを増す。
反射的に括約筋を締めてしまい、女陰と尻穴に菊皺がキュムッ、と窄まってその一部始終を全て連中に見られた。
「はっはぁ、図星かよ！」
「おマ〇コもおケツも寂しいってか!?」
本当に濡れてるのだろうか？　股間はジンジンと熱く火照っているがよく分からない。自分で触って調べるしかないが、いまこんな状態でやったらそれこそ大変なことになる。
「――オレらもさ、お前のイヤらしい裸見せられてすっかり硬くなっちまった。だから責任取ってそのお口で慰めてくれねえか!?」

慣れぬ女体の感覚に当惑するはるかへ、蜥蜴顔がとんでもないことを要求してきた。
驚いて振り返るともうすでにヤツは、ギンギンに勃ちそびえた極太を露わにしていた。
「そんな、ものっ！　絶対にッ‼　ボ、ボクは……」
男なのだ。冗談じゃない、こればかりは従えるわけがない。
同性の性器に口で奉仕するなんて、考えただけでも吐き気がする。
「やだっていうんなら、こっちの二人にだな」
当然、はるかが拒絶の眼差しを返すと、男は結女と希美乃に標的を変える。
二人とも跪かされ、その目前にグロテスクな極太の怒張を突きつけられた。
「ひいっ！」
「やめろっ‼」
二人とも嫌悪感に顔を背け震える悲鳴を上げた。
肩を他の奴らに押さえつけられていて逃げられない。
あと少しで触れるくらいに、てらてらと赤銅色に充血した竿先が唇に近づいた。
「わかったっ！　ボク、が……するからっ‼　二人から離れろっ！」
やはり、こんなことを結女と希美乃にさせるなんて出来なかった。
「はるか……ちゃん……」
「はるか……ッ」

心配そうに声を掛けてくる彼女たちに引き攣った笑顔で強がってみせ、崩れるように膝をついた。その目前へと蜥蜴顔が進み出て、剛直を突きつけてきた。他の連中も輪を狭め、お楽しみの光景を見逃すまいと食い入るようにはるかの顔を見る。

（これ……ボクのと、全然違う……。こんな……）

同じペニスなのに、男のそれは太さも長さも格段に遼のものを上回っていた。

色もおぞましい赤銅色でごつごつの幹には青筋が何本も浮き上がって、まるで怒り狂っているみたいだった。急角度に反り返った裏側に筋が深く刻まれている。

ふてぶてしく太った亀頭もカリが大きく張り出して、まるで毒蛇が鎌首をもたげてるようにしか見えない。鈴口からは絶え間なくカウパーの汁を大量に溢れさせ、怒張全体がぬらぬらと淫靡な輝きを放っている。その圧倒的な威容に男としての敗北感を味わうよりも、女としての恐怖が胸を満たした。

（お、大き、すぎる……。入る、のか……？）

女になって顎が細くなった小さな唇に、収まりきるのか不安になる。そのわずかな怯えも見逃さず、ナイフで切り込みを入れたような男の細い目がサディスティックに歪んだ。

「ほら、自分から咥えな」

従わなければ、と二人の少女に視線を走らせる。男を睨みつけながら怒張へ顔を近づけると、腐った魚のような汚臭が鼻を襲った。洗っていないのだろう、亀頭の表面に白濁し

た垢が層をなしている。カリ溝もチンカスがこびりついていて不潔極まりない。
（うぐうっ！　こんな、汚いのを、口にっ!!）
気がおかしくなりそうだ。耐えきれない。けれども、こんなものを結女や希美乃に舐めさせるのかと思うと、そっちの方が我慢ならなかった。
「く……そおっ！」
悔しさと嫌悪感に震える声でつぶやくと、意を決し蜥蜴顔の不潔ちんぽを咥え込む。
「――!!　ンウッ！　うぐっ、むぅえぇぇぇ……ッ!!」
生臭い塩気と痺れるような酸味と苦みが、意識が瞬（まばた）くほどの腐臭を伴って口いっぱいに広がった。込み上げる吐き気を必死にこらえていると、カウパーと唾液に溶けたどろどろの恥垢が舌にこびりついてくる。
剛直は極太でやはりはるかの赤い唇をみっちり塞いでいた。口中に溜まった汚濁を吐き出すことも出来ず、息苦しさに飲み込んでしまう。
「フ、グゥ……ッ」
意識がまた何度か飛んで朦朧となった。
（あ、あぁぁ……男の、ちんこ、咥えちゃってるぅ……っ！　ボク、男、なのにぃっ!!）
理性を無理矢理納得させても本能が受け入れられるわけがない。熱く猛って打ち震える太幹の感触は、握り慣れた自分のものより格段に硬く、それでいて弾力的だった。

口の中はいっぱいいっぱい。口蓋も頬の内側も余すところなくみっちり男根に接触して、逞しい脈動を感じさせられている。

「くはあっ！　たまんねえっ。こいつの口ん中、キッツキツでオレのちんぽ締めつけてきやがるぜ!!」

その狭さが蜥蜴顔に快感を与えていた。ポニーテールの髪を掴まれて頭を固定された。興奮に打ち震えながら、ストロークがはるかの口腔を抉り始める。

「ンムフゥッ！　ひやっ!!　うご、くにゃ……。あぶぶぶぅうっ！」

張り出た肉傘が口内を穿りまくり、ぽこぽこと頬の外側にまで亀頭の形を浮き上がらせる。口粘膜のヌルヌルを存分に味わい尽くそうと、速度はそれほど速くはないが、時折喉の奥にまで深く挿入され、苦しげにえずく。

（こんな……口ィ、犯されてるっ!!　男にッ、男なのにボクっ！）

けれども身体まで男だったらもっと耐えられなかっただろう。こんな状況なのに、下腹の奥から熱い疼きが広がって、この気色悪さを和らげていた。

（女、の……身体あ、だからっ？　ち、違う……こんなの、に、感じてなんかっ!!）

認めたくなんかない。こんなことされて気持ちよくなるなんて。

はるかが当惑するたびにキュッと窄まる唇の心地よさに、蜥蜴顔は満悦の様子で腰を繰り出す。凛とした美少女が屈辱の表情に歪めた唇を、極太の陰茎が何度も出入りする。

途端に歓喜に身を捩る少年たちの亀頭から、カウパーが水鉄砲のように噴射して艶黒の髪に降り注いだ。だらだらと額に垂れ落ち鼻梁を伝い、新たな腐臭を美貌に刻み込む。
「せっかくいい乳してんだから、それでも慰めてくれないかなっ」
身をくねらせるたび誘うように弾む巨美房にも、肉槍の穂先が押しつけられた。
本当は谷間に怒張全体を挟ませて扱かせたいところだろうが、フェラチオさせている男が邪魔でそうはいかない。仕方なく男子生徒が乳房の側面から亀頭をめり込ませる。
「おほあっ！　これ、かなりイイッ!!　柔らかいの先っぽに粘り着いてくるっ！」
上擦った喘ぎを上げてくねくねと房肉を掻き回し始める。
「うおっ、本当だッ！　ちんぽ溶けそうっ」
「この押し返してくる感じもたまんねえっ!!」
男根が殺到した。
「ひんっ!!　ふぁッ！　ふ……ぇあぁあぁっ、おっぱいっ、しょんなの、れ……あぁぁっ」
敏感な膨らみの中で幾本もの硬い感触が暴れ、落ち着かない疼きに腰が浮き立つ。先っぽから滲み出た大量の先走り汁まみれのペニスは、ぐちゅぐちゅと卑猥な音を奏でる。そのまま乳房と汚濁が混ぜあわされて、不潔極まりないおっぱいが出来上がりそうだ。
「こいつばっかりしゃぶってないで、俺のも気持ちよくさせてくれよっ!!」
怒張を頬張る唇の方にも、衝動を持てあます男たちの勃起が殺到した。

（うう……ボク、口一つしか……ないのに）
急かすようにほっぺたを窪ませてくる亀頭を咥え込んだ。
「――んうっ！　うぐ……ッ、あ……ふぅっ」
一本のペニスをしゃぶり続けて不快な味わいにようやく慣れたが、それとは違う新たな汚味が味蕾に染み込んで吐き気を催させた。
「ふああっ！　気持ちいいっ!!　フェラチオ、たまんねええっ！」
興奮した男の突き込みが、吐き出すことを許さない。
「ングッ、うぎゅうっ!!　ああっ、ぶあっ！　ふぁめェ……ッ!!」
ぐじゅっ！　じゅぷっ!!　じゅぽっ、じゅぽ、じゅぽぽっ！
亀頭からの先走りに加え、不浄な味わいに溢れかえった唾液が混ざって、下水が詰まったような響きがストロークに引き起こされた。
（く……、激し……すぎっ!!　く、苦ひ……、おぐうっ）
ぶばっ！　べじょじょっ!!
喉奥を突かれて、込み上げるえずきにたまらず濁液ごと男根を吐き出す。
「うはっ、今度は僕の番ね。転校生の口ま○こ～♪」
しかしすぐに別の男根が、また異なるおぞましい味わいをこびりつかせて、口に押し入ってきた。

「んぐううっ!!　あふうっ！」
まだ息が整っていない。唇をいっぱいに塞ぐ怒張を押しのけようと突き出す舌に、据えた風味を含むバターのようにこってりした恥垢がへばりついて、はるかの意識を瞬かせた。
その間にも膣を独り占めする渡辺の抽送は執拗に子宮を苛め続け、女体化した少年から牝の喜悦を掘り起こす。
（ああ、もうっ！　そんな、奥、突くからっ!!　あふっ！　汁……止まらないっ!!）
垂れ流される子宮液が、止めどなく膣から溢れて失禁のように股ぐらを濡らす。
肉幹と襞壁が擦れあうくちゅくちゅという音を聞いていると、自然に膣穴が収縮して親友の怒張に絡みつく。
（処女、失ったばかりなのにぃ、こんな感じてっ、この女体ぁあっ！）
淫乱、なのかもしれない。女になった自分は。そんな心配が湧き起こった時、
「うおっ、また締めつけてきたっ！　エッチなんだなあ、はるかさんのおま〇こは」
渡辺に貪欲な膣穴を指摘された。
「やあっ！　違……うっ!!」
恥ずかしさと情けなさに顔が焼けるように熱くなった。むしろお前が違うとはるかをたしなめるように、その間にもヴァギナは波打つような痙攣で剛直を喜ばせる。
（だめ……だっ、気持ちよく、なりすぎっ。こんなのっ、こんなところっ、あぅっ！）

子宮の奥からマグマのような煮えたぎりがグツグツと沸き上がってきていた。
どんなに気を引き締めようとしても、刺激を与えられると身体は女としての反応を堪えることなく示してしまう。
恐る恐る顔を上げると、とろりと惚けていても無垢さを失わない結女の瞳が、自分の無様な姿を見下ろしていた。
「あはっ、はるかちゃん……男の子に、えっちされちゃってる。気持ちよさそう……」
「――ッ!!　あ、ああ……結女、違……こえ、違ふの。気持ひよふなんは……へあっ！」
彼女が非難しているのではないということは分かっている。
羅刹童子の愛撫に蕩けさせられた頭で、見たままのことを口走っただけだ。
けれども彼女の目に、自分が男に犯られて、嬉しがっているように映っているという事実が、はるかにはショックだった。
「ふあっ！　あ、あうっ!!　ら、めぇっ！　結女、見へうのにっ!!　んぁああ、嘘ぉ。きいッ、来ひゃうっ、奥ぅ、込み上げへきひゃうっ！」
最愛の従妹が見ている前で、無様にイキたくなんかない。
女の姿をしていても男なのに。女の快感で淫らに絶頂なんかしたくない。
急かすようにペニスで子宮を突き上げられ全身をガクガクと震わせながら、達しそうになる甘美を堪え続ける。

ぷじゅぷじゅと愛液が洪水のように荒れ狂う中、
「ほら、結女ぇ。あなたを護ってくれるはるかちゃんが、男の子におちんちん突っ込まれて、イヤらしく絶頂ちゃうわよ～」
結女のぽにょぽにょ巨乳にちゅぱちゅぱ吸いつきながら、羅刹童子が楽しそうに指摘する。ツインテールの栗色髪をしたあどけない少女が、グビリと生唾を飲み下し大きな瞳を見開いた。
「イ、絶頂の？　はるかちゃん……？」
鈴の音のような声で、悩ましい問いかけをしてくる。――限界だった。
「ふぁああっ！　や、らめっ!!　あうっ、あぁッ！　来ゆッ、んう、ああぁ嫌なのぉっ!!　イクッ、イッひゃううっ！　結女の前れっ。あぁ、結女ッ、見にゃいれ、結女ぇえっ!!」
しかし羅刹に官能を昂らされた従妹は、瞬きもせず興味津々にはるかの悶える様を見詰めている。その視線で、膣襞が固く窄まり怒張肉を勢いよく締めつけた。
「くふっ!!　す……ご、ああ、もう、射精るっ！」
渡辺がストロークを勢いづかせガクガクと身を震わせる。
膣壁が、急激に膨張する肉幹に押し広げられた。カクンとはるかの腰が迫り上がった。
どびゅどびゅっ!!　びゅるるっ！　どぴゅるるる――ッ!!
その刹那、煮えたぎった白濁が子宮口と密着した鈴口からぶちまけられる。

（ひ……ああっ！　精子ィッ!!　膣内（なか）っ、射精（ださ）れ……はうううっ！）
熱くどろどろに滾った大量の液が、身体の内部を占めていく。いままでは放つ側だったというのに、胎内に放たれる当惑が脳裏を混乱させる。
（もし、孕んだら！　出来ちゃう？　渡辺と、ボクの赤ちゃんっ!!　男同士なのにっ!?）
おぞましい可能性が頭を掠めた。そんなことになったら、結女にどう思われるのだろう？
耐え難い苦悩が心を占め、被虐の官能を煽り立てた。
「〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ッはぁああっ！　イクぅううっ!!　へぇあはぁあっ！」
堰き止めきれない絶頂が、一気に押し寄せて理性を消し飛ばした。
ぷじゅうっ！　ぷじゃじゃっ!!　ぴしゅっ！　ぶぢゅぶぢゅぶぢゅ――――っ!!
精液を極限まで搾り取ろうとするかのように収縮した膣穴へと、喜悦に脈打つ子宮から大量の潮蜜が溢れた。
「ふわぁあああっ！　こんにゃ、いっぱぁいいっ!!　精子ぃ、ボクの膣内（なか）ッ、精子ッ、射精（だ）れちゃったぁああっ！　ひぃうううっ!!　溢れてくるッ、渡辺の精子、ボクの膣から溢れてきちゃうううっ！」
絶頂の潮蜜と混ざりあった濃厚な白濁が、ペニスを突っ込まれた穴の狭い隙間からだらしなく噴きこぼれてくる。
――ぷじゅっ!!　びゅぶっ！　びじゅぅッ!!

狂おしい状態に括約筋を窄めると、膣がさらに収縮し液噴の勢いが増す。
「くはっ！　転校生ッ!!　絶頂ってるっ！　俺も射精るうっ!!」
その喉奥へと、これこそが真の射精だと言わんばかりに、口に咥えた包茎ちんぽから白濁が噴射された。
どびゅぅっ！　ぴゅるぴゅるっ!!　ぴゅぶっぴゅぶぶっ！
「んぐううっ!!」
口中に生臭く饐えたカルキ臭が広がる。舌に痺れる苦みを染み込ませ、どろどろと喉に絡みつくそれを反射的に飲み下し、息を詰まらせ男根を吐き出す。べちょべちょと、唇から濃厚な牡ミルクが滴る中、
「射精るぞっ！」「うぉ俺もおっ!!」「ああっ、エロすぎる、はるかちゃんっ！」
ぶびゅるるるっ!!　びゅぶびゅぶびゅる――っ！　どぴゅどぴゅどびゅびゅうっ!!
はるかの痴態に煽られ、両手に握ったペニスからも、身体に擦りつけられる男根からも一斉にスペルマがぶちまけられた。
「ふぇッ!!　いっぱい、精子、来たぁっ。ああ、ダメッ、こんなのっ、男、なのに、ボクっ！　ひあっ!!　あ、また……イクッ！　男なの、にっ、おんなのからだッッ、イクッ!!　あ、あ、あぁっ、ひぁあああぁ――――――ッ！」
髪の毛も顔も、乳房も、結女の体操着にも、おびただしい量の孕ませ汁が降り注ぎ、ぐ

ちょぐちょに染みつく。栗の花を思わせる独特のカルキ臭は、男の時に嗅ぐとただ臭いだけだったのに、女の身体で味わうと悪くない気になってくる。胸いっぱいに吸い込んでみたら、じゅん、と膣が濡れた。

全力で放ちぐったりと崩れ落ちる渡辺のペニスが抜け出て、妙な解放感に溜息が漏れた。

（ふぁ……おま〇こ、ちんぽ挿入られるの、こんな……気持ちイイなんて……ん……）

次は俺の番とばかりに渡辺を押しのけ男子生徒が覆い被さってくる。その猛った怒張へ「はいどうぞ」とばかりに股間を突き出して、はるかはクールな美貌を妖艶に弛ませた。

もう次の男の怒張を咥え込んで遼、いやはるかは絶頂に達していた。あのからかい甲斐のある少年の面影を微塵も感じさせない有様で嬌声を張り上げる。

そのたびに、結女の身体には濃厚でしかし澄み渡った錬気がたっぷり湧き出してきた。

従姉同様、彼女の身体ももうとろとろだった。『鬼慰姫』と『鬼斬姫』、運命を共にする二人は互いに影響しあい、はるかの官能が結女にも及んで、羅刹童子の愛撫に悩ましい反応を示している。太ももで挟み込まんだペニスに、彼女の股間から滲み出した愛液がねっとりと粘り着いていた。

（これを、結女の膣内に挿入れば……。わたしは、真の覚醒を遂げられる。天地を揺るがした強大な、かつての鬼神の力を取り戻せる！）

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル
TEL03-3555-3431（販売）／FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改さん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。
ⓒKILL TIME COMMUNICATION　Printed in Japan

http://ktcom.jp/

仙獄学艶戦姫 NOBUNAGA!

ノブナガッ! comic

待たせたな

信長が、秀吉が、義元が、エッチにバトルにと漫画で大活躍！
もうひとつの『仙獄学艶戦姫ノブナガッ!』がここにある!!

毎月中旬
発売!!
18歳未満の方は
購入できません
18

漫画：老眼
原作：斐芝嘉和
キャラクター原案：SAIPACo.

戦うヒロインが屈服させられちゃうアンソロジーコミックス
『闘神艶戯』偶数号にて連載中！

編集・発行 キルタイムコミュニケーション
〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル TEL:03-3555-3431(販売) FAX:03-3551-1208
http://ktcom.jp/

ATOMIC POCKET NOVELS NEW RELEASE

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル／毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価／690円(税込)

全国書店で好評発売中

平凡な少年が女体化! 鬼に狙われた従姉妹を護れ!!

目覚めると従姉妹を護る美少女剣士になっていた

【小説：狩野景／挿絵：天鬼とうり】

全国書店で好評発売中

男の子と女の子——

二つの性の間で揺れ動く
男の娘が巻き起こす学園ラブコメディ!!

オトミコ! 僕は男の巫女娘

【小説：大熊狸喜／挿絵：大空一樹】

思春期なアダム5 アウトサイド・ドア

【小説：さかき拳／挿絵：天海雪乃】

全国書店で好評発売中

真夏のキャンプ場で勃発する天使VS魔族VS人間の三つどもえバトル!

既刊LINEUP 全国書店で好評発売中

- ●仙獄学艶戦姫ノブナガ!! ①〜③
- ●ピルグリムメイデン ①〜③
- ●不死の吸血鬼がFSのご主人様を募集しているようです
- ●思春期なアダム ①〜④
- ●呪詛喰らい師【カースイーター】①〜②
- ●女幹部メル様のセカイ征服計画!
- ●借金お嬢クリス ①〜③
- ●無敵の姫騎士がHMに目覚めたようです
- ●宇宙海賊学園ブラックキャット

KTC 発行◎株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル TEL:03-3555-3431(販売) FAX:03-3551-1208

▶最新情報は公式サイトへ! あとみっく文庫 検索

あとみっく文庫 既刊情報

ピルグリムメイデン
深紅の巡礼聖女

チェーンソー片手に深夜の街を駆け抜けるシスター玲音。彼女は最近不死者たちとの戦いがなくて欲求不満気味。そんな少女の前にユージーンと名乗る不死者が現れる。彼はなんと失われた玲音の過去を知る者だった。明らかにされていく巡礼聖女の辿りし遍歴――そのすべてが繋がった時に見える衝撃の真実とは!?

小説●狩野景
挿絵●ぽち。

全国書店で好評発売中

ピルグリムメイデンⅡ
白装の騎士

チェーンソー片手に深夜の街を駆け抜けるシスター玲音。彼女は最近不死者たちとの戦いがなくて欲求不満気味。そんな少女の前にユージーンと名乗る不死者が現れる。彼はなんと失われた玲音の過去を知る者だった。明らかにされていく巡礼聖女の辿りし遍歴――そのすべてが繋がった時に見える衝撃の真実とは!?

小説●狩野景
挿絵●ぽち。

全国書店で好評発売中

詳しくはKTCのオフィシャルサイトで http://ktcom.jp/

あとみっく文庫 既刊情報

ピルグリムメイデンⅢ 復讐の魔神

太古より繰り広げられてきた善なるものと悪なるものとの戦い――その一端が今、終わろうとしていた。新たなる巡礼聖女たちの参戦、明かされるジュリエッタの正体、三真祖の目的、追われる身となった玲音、魔神を受ける運命とは――!? クリムゾン・レインの物語、衝撃の最終章。

小説●狩野景
挿絵●ぽち。

魔法妊婦ハラマセ∞ハラスメント

魔法少女スノーレインとして、5年前に世界を救った雨宮雪菜。彼女は普通の少女として過ごしていたが、ある日ひどい体調不良に襲われる。実は5年前に魔人に妊娠させられていたらしく!? 赤ちゃんの父親を探し出すため、雪菜は魔法の力を手に、再び魔人たちに立ち向かっていく!

小説●上田ながの
挿絵●瀬上大輔

詳しくはKTCのオフィシャルサイトで http://ktcom.jp/

思春期なアダム

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田睦月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった！　ごく普通な少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する！

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃

思春期なアダム2 背後をねらう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、睦月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たなる刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱！　“蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女＆美少年(!?)たちの誘惑で、睦月も新たな局面に…？

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃

詳しくはKTCのオフィシャルサイトで http://ktcom.jp/

あとみっく文庫 既刊情報

思春期なアダム3 一人泣きの子猫

蛇眼の力を持つ睦月をそれぞれの思惑で見守る、天使少女に悪魔少年＆秘密組織の美少女たち。そこに睦月の命を狙う刺客――黒猫が再び襲いかかる…も、睦月は球技大会のバレーボール特訓や、蛇眼の力を抑えるためのエッチに大忙し!?　果たして彼の力を手に入れるのは誰だ!?

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃

思春期なアダム4 聖域の崩壊

少女天使エンジュを核にして動き出した天使サイドの計略により、睦月たちの学園生活がついに大崩壊を迎えることに!?　FeTUSとの全面衝突の危機に際して、マキナそしてミスAが立ち上がる…。蛇眼の少年、睦月にはこの戦いを止める術は無いのか!?緊迫の新展開!!

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃

詳しくはKTCのオフィシャルサイトで http://ktcom.jp/

呪詛喰らい師（カースイーター）

人の強い想いを糧とする半妖神――淫神。常磐城咲妃は、呪印術と「ウズメ流神伽の戯」を駆使し、時にはその豊満な身体を差し出して彼らを鎮めていた。そんな彼女が派遣された街では淫神事件が次々と起き始めて……!?　迫りくる魔の手から友を守るため、咲妃は淫らな戦いに身を投じる!!

小説●蒼井村正
挿絵●或斗せねか

呪詛喰らい師2（カースイーター）

人に害なす淫神を鎮める学生退魔師・常磐城咲妃。彼女の通う槐宝学園に転校してきたのは――春先に彼女を襲撃してきた瑠那・イリュージアだった!!　咲妃になついた彼女は、咲妃たちといっしょに学園生活を送り始める。さらに「ゼムリヤ・イリュージア」と名乗る謎の女性が咲妃をペットにしようと狙ってきて……!?

小説●蒼井村正
挿絵●或十せねか

詳しくはKTCのオフィシャルサイトで http://ktcom.jp/

コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト http://ktcom.jp/

title:

ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』 トキサナ

『ドSの流儀』 chaccu

『生徒会長前哨戦?』 天道まさえ

title:

発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉

電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中!

※18歳未満の方は購入できません。

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

http://ktcom.jp/

◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアルの**バックナンバー**も買えるよ!
◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利!
◎二次元編集部の愉快な**Blog**も更新中!

KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!